

世界を繋ぐ胎内記憶グローバルプロジェクト

企画者:五十嵐 タ子

ClearMind Conceptual Art Director

キーワード:胎内記憶・教育・表現アート・ベビー手話・ヒプノセラピー

【企画の趣旨】

産婦人科医で胎内記憶研究の第一人者である池川明博士と大門正幸博士が研究している胎内記憶を地球上に住むより多くの人々に伝える為に、胎内記憶グローバルプロジェクトは開始された。教育と表現アートセラピーから得られた考察により「胎内記憶」が普遍性を超越した教育であることを本シンポジウムで示唆し、胎内記憶の事例の紹介するだけに留まらず胎内記憶を保持する人々の語っている真意や、胎内記憶に散りばめられた記憶の断片から考察する叡智を、英語と日本語で紹介していく事で受精・誕生・発育という経験が地球上の全ての人々と平和に繋がる最良の方法であることを提案する。

感覚全てを使った子ども達とのコミュニケーションの一つとして乳幼児教育の現場で研究開発を行ったベビー手話により喋れない年齢の子ども達の意見や希望を取り入れている土橋優子は、子ども達の生まれ持った本質的な感覚である「胎内記憶」を踏まえた育児の必要性が高まっていることを実感。子ども主体の育児法を提唱・実践し、子ども達と共に「いのちとは何か」「いのちをどう使いたいのか」などの生きる意味を感じ、自分らしさを保ちながら豊かな社会を創る在り方について子ども達による鋭い視点を織り交ぜた考察を示す。

13年前からイメージの中で故人や目に見えない存在と対話をするヒプノセラピーの手法を用いて「イメージによる胎児との対話」を実施している竹内秀樹は、母親と胎児との対話を促すことで胎児にとって居心地の良い環境を模索し、リラックスした状態で出産を迎えられる様にヒーリングを提供している。より良い親子関係を築いていく為にも、妊娠中から胎児と対話をする事で得られる胎児からの慈愛に満ちたメッセージの重要性を示唆する。

生まれる前から選んで来たミッションや誕生した本来の目的を視覚化する「表現アート」を実践する広沢そうは、体験型・胎内記憶アートワークという手法を使って言葉に頼らない表現手段(絵・立体・発声・ムーブメントなど)から魂との対話により胎内記憶を呼び覚ます可能性を提示する。意識変革を促すために覚醒の鍵として「胎内記憶」と、気づきを得るための学びの場として「表現アート」を融合させた事で、ありのままの自分を表現しながら望む現実を主体的に生きるポジティブな捉え方を後押しする胎内記憶アートワークが、世界平和を構築するための有効な手段であることを示す。

子供たちは「今、ここ」という感覚しか存在しない未知なる世界から地球に到着し、誕生の瞬間から常識という観念を身につけることで次第に叡智を失い、何時しか神秘的な世界の存在さえも忘れてしまう。胎内記憶が「意識の活動」なのだという事を発信する五十嵐タ子は、胎内記憶を科学的見地から紐解き、生命の尊厳について古くからの精神性と最新の科学技術を持ち合わせている日本より胎内記憶をどのように生活に活かすべきか、胎内記憶がもたらす人生観とは何か、日本に於ける胎内記憶の普及に伴う社会現象とは何か、胎内記憶が既存の学問の壁を超えた学際的な研究を更に発展させた普遍性を超越した教育なのである事を提案する。

以上の発表を通して、胎内記憶は既存の枠組みを越えた社会に誇れる「意識」の創造活動として地球上の全ての人々と平和に繋がる有効な手段だと実感できる機会を提供したい。